

幼児教育学科

科目名: 保育表現技術(言語表現)				担当教員 氏名: 高見 泰子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
1	1年次 前期	専門科目	演習	必修	保育士資格指定科目(選択)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 担当年齢の幼児の発達を踏まえ指導案を作成し、学外の幼児施設に赴き、実際に保育し、振り返りを行う。						
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や保育技術を習得する。特に言語表現に焦点を当てる。また、表現活動に用いる教材等の作成及び活用と、保育の環境構成及び具体的展開のための保育技術を、グループでの模擬授業や実際の子ども達に演じることでより学びを深めていく。				<ul style="list-style-type: none"> ・児童文化財 ・子どもの発達 ・言語環境 ・保育技術 		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		4. 5. 6. 7. 8. 9.	
B 専門的技術	絵本、紙芝居、素話等に関する知識と保育技術を習得する。					
A 知識・理解力	子ども自らが児童文化財等に親しむための言語環境構成を考える。					
D 問題解決力	言語表現活動の展開について総合的に学ぶ。					
F チームワーク・リーダーシップ	役割を分担しながら実践保育をすることを通して、他者と協働し共に育ち合う。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: %	レポート: 20 %	発表: 70 %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: 授業態度や講義のレポート、製作課題への取り組みや発表、グループ活動貢献度等から総合的に評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> プレゼンテーション <u>実習、フィールドワーク</u>						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: ⑬⑭コマ目に学外の園で実践を行う						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の演習を互いに見合い具体的に評価し、改善を加え、学外で自信をもって演じられるようにする						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
① 言語表現活動のねらいと内容及び児童文化財について				年齢に応じた絵本の選定	30分	
② 幼児の発達における題材の選び方(0歳児から2歳児)				他者からの評価を受け再選定	30分	
③ 絵本・ペープサート・紙芝居等の演じ方				教材の決定	60分	
④ 個人製作				教材の製作	120分	
⑤ 個人製作				教材の製作	120分	
⑥ グループ毎の模擬発表・協議(第一回目)				教材の発表練習	60分	
⑦ グループ毎の模擬発表・協議(第二回目)				教材の発表練習	60分	
⑧ 他のグループ毎の模擬発表・協議(第三回目)				教材の発表練習	60分	
⑨ 全体での模擬発表・協議(第四回目)				教材の発表練習	60分	
⑩ お楽しみ会の持ち方・役割分担				手遊び・ダンスの選定	60分	
⑪ 手遊びやダンスの演じ方				手遊び・ダンスの練習	60分	
⑫ 模擬授業・協議				教材・手遊び・ダンスの練習	60分	
⑬ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	60分	
⑭ 学外実習(学外の幼児施設) * ⑬と⑭の2コマを充てる				実践の評価	30分	
⑮ 実習の確認・まとめ				ファイルの作成	30分	
使用テキスト: 特に使用しない				その他参考文献など: 教育・保育要領解説(フレーベル館) 倉橋惣三選集(学術出版会)		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): アクティブラーニングの一環として、個人やグループでいろいろな保育教材を作成し、模擬発表と評価・改善を重ね、最終には学外に出て実習する場を設けています。毎回の出席が原則です。やむを得ず欠席した場合は、各自で時間を作り遅れを取り戻してください。授業内容をきちんと整理し実践に役立つようファイリングしておきましょう。						